

たいにい・ぼっくすつうしん

Vol.107

令和6年
2月15日

変化する価値観は、風習と文化を変える

先日の降雪は、季節の変わり目が近づいていることから、判断を鈍らせました。最初は「積もる気配ないよ」と構えていましたが、帰宅の送迎前になると思いのほか積雪し始めたので、大急ぎで冬用タイヤの履き替えをする事態に。早い雪解けは助かりました。

最近では、昔話のストーリーも変わりつつあるようです。例えば、サルカニ合戦では、カニが死なず、報復を受けるサルは反省して仲直りするという結末に変わっています。節分も同様で、鬼が子供を泣かせることに対する非難があり、「鬼は外」が禁句とされる風潮も広がっています。この変化する価値観と加えて、多様性を受け入れることは、どのような答えを導き出せば良いのか悩ましい問題です。保育園によっては鬼の演出を取り止めたとの話があります。

節分は厄払いの意味がある一方で、“怖い”という体験を通して興奮し楽しむことも重要であり、特定の恐怖に慣れさせ、それに打ち勝つ力を養う要素も含まれています。ただし、子どもたちが本当に不安や恐怖を感じる場合、それは考慮する必要があります。この加減が非常に難しいのです。恐怖の度合いはひとりひとり異なり、また、年を重ねることで変化するからです。今年、相模大野事業所では、相模原市のマスコットキャラ“さがみん”に協力を貰って、節分のイベントを提供する試みをしました。節分行事を終えた後は記念撮影を行い、ほどよい加減で、イベントを提供することができたのではないかと思います。

鬼で子供を泣かす、鬼であれば攻撃的になって外に追い出してもいい。その行為だけを受け取るのではなく、目的と行程も含めて、子どもたちに学んでもらう必要があります。終わってみれば、「楽しかった」の終着地点を目指し、今年一年のイベントの提供をしていきたいです。

たいにい
のようす

写真掲載欄のため、内容を削除しております。

3月の予定

雛祭り(制作活動)

他、春季長期休暇期間計画書参照

3月 休業日

2日 3日

9日 10日

16日 17日

20日 23日 24日

30日 31日

